

日本語教師？高校教師？活動紹介

チユムポーンにムチュー

チユムポーン(Chumponburi)って？

私は今、タイの南部チユムポーン県にある中高一貫校で日本語を教えている。私の学校では高校1年生から3年生まで45人が週に6時間ずつ、日本語を勉強している。授業は、タイ人日本語教師の先生1人と一緒にチユムポーンティーチングで、タイ人の先生が主に文法を、私が主に会話の練習や、実際に日本語を使う場面などを設定して練習する「活動」を行っている。

という教え方の勉強をしていたが、こちらでそれを見ると、学生はすぐにはかー！と驚いてしまう。ここでは、日本語教師の前に、一高校教師であることが必要なのである。人数は少ないが、クラスコントロールが必要であるし、授業を楽しく、「話したい！使いたい！」と思うものにしなければ、教えた日本語は教えたそばから学生の記憶から零れ落ちていく。

日本人がほとんどいないこの町で、日本語を使う機会は、この教室の中か、学校内で私に出会ったときだけである。それでも学生は、「おはようございます」、「もうご飯を食べましたか？」などと話しかけてくれる。また、授業始めと終わりは、全学年「起立」「礼」「着席」を言うようにしている。

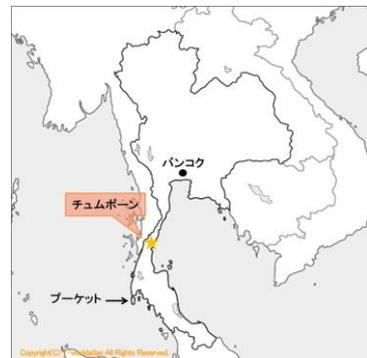
「助け合い」を大切にしているタイ人。それに助けられて生活も活動もしているが、その「助け合い精神」は、勉強にまで影響している。授業中に問題を出し、答えさせると、周りから答えがひそひそと聞こえてくる。宿題を出しても誰かのものをうつさせてもらう。テストのときもカンニング。どうすれば自分の力で勉強してくれるのか、考えて考えて考えて、試行錯誤する毎日である。



タイに来て、人生初の一人暮らしを始めた。最初はわくわくどきどきだったけど、あれ、日本の一人暮らしの家と全然違う。キッチン・・・ない。冷蔵庫もない。ご飯どうするん？お風呂、もちろんない。便器の隣にシャワー。シャワーを浴びたら、どうしても便器もびちゃびちやになるやん！シャワー？はもちろん、水。いくら暑いタイでも、夜十一時の水シャワーはさすがに寒い！朝起きれば、ゴミ箱にありの行列。どこから来たん、このあり・・・。

そんな家とももうすぐ一年のお付き合い。さすがに寒いので温水器を設置したり、冷蔵庫や電子レンジなどをそろえたりし、今では快適に暮らしている。「住めば都」と言えるようになるのに、たっぷり一年かかりました。

いつも支えてくれる家族、友人、タイ人の同僚に感謝。



果物(ココナッツ・バナナ・ランプータン・マンゴスチン)や、コーヒーが有名で、チユムポーンの人は主に農業や漁業で生計を立てている。

タイ南部の入り口にある県、チユムポーン。バンコクとプーケット島のちょうど中間地点にあり、バンコクまで長距離バスで約七時間。電車もあるが、電車は時刻表通りに来ないのが当たり前。遅れるのも当たり前。なので十時間ほどかかる。タイで有名な島、タオ島やサムイ島へ行く船がチユムポーンの港から出ているので、旅行者の中継地点になっている。

初めての...

つぎ

チユムポーンへ

来て、もうすぐ一年。ようやくここでの生活に慣れ、活動も安定してきました。タイトルの「ムチュー」

「夢中」は、帰るまでの私の目標です。チユムポーンが第二の故郷になるくらい大好きになれたらな。